

# 随泉寺寺報

2002 年 2 月号

第 378 号

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

仏婦講座

講師 湯来町 西法寺住職

吉崎 哲真師

講題 「名前のもつ意味について」

「あかつきの まだくらきより み名となふる 出で入るいきぞ たふと  
かりけり」 斎藤茂吉

夜明け前のひと時、斎藤茂吉は自然の大きに触れながら、しみじみと  
のち そのものをみつめています。今の安らぎがどこからくるのか、この  
落ち着きは何なのか。作者はその静けさの中で、しみじみと仏のみ名を称  
えます。

その息の白さを見つめ、呼吸しているわが身に注がれる仏のめぐみを感じ  
て、作者は満ち足りた思いに包まれていたのでしょうか。甲斐和里子さんの  
うたに「みほとけの み名をととなふるわがこえは わがこえながら たふ  
とかりけり」という歌があります。愚痴の出やすい口であり、悲しみの言  
葉や、時には怒りの言葉も出てくる私の口ではあるが、今、み仏のみ名を  
称えているわが声は、わが声ながら なんと尊いことであろうかと、仏の  
大悲のぬくもりに浸っている歌です。

## 2 月の行事予定

2 月 14 日 昼席午後 1 時より…… 仏婦講座

2 月 14 日 夜席午後 7 時半より…… 出張法座 望ヶ丘 集会所

2 月 15 日 朝席午前 10 時より…… 会員物故者追悼法要 **お斎**

2 月 15 日 昼席午後 1 時より…… 仏婦講座

## ふるさとへの想い

鎌田哲成

《ぼく、退院した時思ったんだ。ぼくのふるさとって家かなって》  
先月の寺報で《一筆啓上 ふるさとへの想い》をのせましたら  
いろいろな人が読んでくださり、ふるさとの想いと言うのは  
いろいろあるなぁと感じました。

上記の言葉はおそらく小学生か、中学生でしょう。初めて家を離  
れて入院した。不安だったんでしょ。家に帰って安心した。  
ほっとした。ふるさととは安心するものです。ほっとするところ  
です。

《ふるさとよ、ぼくは、君のことは、わからないけど、君は、  
ぼくのことわかってるみたい。》これもおそらく中学生ぐらいの  
言葉でしょう。今まさにふるさとの中に抱かれているのだけれど  
も、その愛情の深さがよくわからない。

《ふるさとがない者にとって、ふるさとという言葉は、意味の  
ない悲しい言葉です。》ふるさとがないという人は、気の毒なよ  
うな気がします。しかしふるすとは たんに家族だけでなく、先  
生も 近所のおばさんも、ふるさとの一部です。ふるさとという  
のは、多面性です。山があつて、海があつて、雪がふつて、あた  
たかい笑顔があつて、ということだけではなく、怒られたことと  
か、悲しいこととか、自分の生きた時間そのものが、ふるさとな  
のかもかもしれません。

《いつのころからか、「かえる」が「行く」に変わった。私本  
当に巣立ったのですね。少しさびしい。》わかるような気がし  
ます。そのターニングポイントはどこなのでしょう。ひょっとし  
たら待っていてくれた人がいなくなった時から、それとも自分が  
ふるさとになったときから？

ありがとうございます。

特別永代経	一金 三十万円也	平原千鶴子	様
特別懇志	一金 二十万円也	平原千鶴子	様
門信徒会	金一封	平原千鶴子	様